国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	史跡	下岡田官衙遺跡	しもおかだかんがいせき		安芸郡府中町石井城二丁目	令和3.3.26			下岡田官衙遺跡は広島湾北東部の山塊から南西に派生する丘陵の先端，標高10～60mの南西向きの緩斜面地に立地する。昭和38年度から昭和41年度まで行われた遺跡中心部の内容確認を目的とした発掘調査で2棟の瓦葺礎石建物や井戸などが検出されるとともに，瓦，土師器，須恵器，木簡，文書函蓋，木製品などが出土した。その立地や出土遺物，周辺の地名などから，早くから安芸駅家である可能性が指摘されてきた。 平成28年度から令和元年度まで府中町教育委員会によって行われた発掘調査やこれまでの調査成果の再検討の結果，遺跡は7世紀後半に漆を用いた作業に関わる施設として成立し，8世紀中ごろに計画的に配置された2棟の瓦葺礎石建物を中心とした施設となり，9世紀前半に廃絶したことが明らかになった。山陽道沿線では8世紀中葉以降に，瓦葺の駅家が整備されることが知られているが，本遺跡の施設もこれに合致し，規模や出土遺物からして寺院や国府，郡家関係施設とは考えにくく，駅家の可能性が極めて高いことが改めて確認された。 山陽道駅路に沿った陸海交通の要衝に立地する安芸駅家の可能性が高い官衙遺跡であり，山陽道沿線における官衙の展開を知る上でも重要な遺跡である。		関連施設：府中町歴史民俗資料館（082-286-3260）
県	重要文化財（建造物）	多家神社の宝蔵 附　神輿　1	たけじんじゃのほうぞう	1棟	安芸郡府中町上宮の町三丁目	昭29.4.23	校倉，入母屋造，檜皮葺		もと広島城三の丸（現在の広島市中区）の稲荷社にあったもので，江戸時代初期の元和年間（1615～1623），浅野氏が広島に入封した時に建立されたと言われる。明治初年藩主浅野氏から寄進され，現存唯一の広島城関係の建物となっている。向拝（こうはい）がついて中に大きな神輿（みこし）が納められている。 校子（あぜこ）組手の外の部分が方形であることは，極めて異例である。日本に残存する30余棟の校倉は，いずれも校子が三角（表側中央に陵線があるが裏は平らである）に削られたものであるが，この多家神社校倉は，校子組手の部分が四角（表裏に陵線がある）である。		
県	重要文化財（彫刻）	木造薬師如来座像	もくぞうやくしにょらいざぞう	1躯	安芸郡府中町石井城	昭32.2.5	寄木造，彩色	像高86cm，膝張77cm	道隆寺は，平安時代（794～1191）に開創された安芸国府の古寺で，薬師如来はその本尊である。檜材で全体に素地木目があらわれ，容貌は端正で破綻の少ない佳作である。通肩（つうけん）にかけた衣がひどく薄く感ぜられ，その腹部衣文（えもん）にかすかな翻波（ほんぱ）式をうかがえる点は平安様式であるが，胎内に建仁元年（1201）の造立銘をもっている。また，この像には肉髻，白毫の痕跡がないところから，地方作との説もあるが，平安様式の流れをくむ本格的作品であることは，各所の技法から十分うかがえる。 ※肉髻（にっけい）…仏の姿を表す三十二面相の一つで頭頂の髷（まげ）の形をした部分 ※白毫（びゃくごう）…仏の姿を表す三十二面相の一つで仏の眉間にあって光明を放つとされる		関連施設：道隆寺仏像収蔵庫（082-282-4636）
県	重要文化財（典籍）	紙本墨書田所文書 安芸国街領注進状（前欠）　1巻 正応二年正月二十三日 沙弥譲状の奥書のあるもの　1巻	しほんぼくしょたどころもんじょ	2巻	安芸郡府中町	昭44.4.28	紙本墨書，巻子装		平安時代後期（12世紀）から安芸国街（こくが）の田所職（たどころしき）を世襲した在庁官人・田所氏に伝えられた文書群。 国街領注進状（ちゅうしんじょう）は各種免田と輸租田を列記した注文である。巻首部を欠くが，奥書に「十二月日大判官代（花押）」とあり鎌倉時代初期から中期（12世紀末～13世紀）にかけてのものと推定され，当時の安芸国街領の様相を知るための貴重な資料である。 正応2年（1289）正月23日沙弥譲状（ゆずりじょう）のある一巻は田所氏の財産を書きあげた注文である。国街における船所・惣税所職以下田所氏が世襲している諸職の得分，散在する数十町歩の私領地数十人に及ぶ所従など田所氏の豪族的性格，具体相を知る貴重なものである。		